

強化部/競技部：2025年リーグ戦1部リーグのチーム数・対戦方法

I. 前提条件の整理

1) 強化部のゴール

①インカレの枠取り（ベスト4以上） ←関西がベスト4入りしたのは2016年が最後（大阪人間科学）

②シード取り（ベスト8・16以上） ←2024インカレはベスト8=0, 16=4

↓

成績目標の設定は各チーム単位で形成されるもの

↓

強化部にできることは少しでも①②に貢献できる試合環境を整えること

①「強化に繋がる拮抗したゲーム（単に接戦という意味ではなく）」を増やすこと

②トーナメントのような1巡で終わらずに成長できる2巡を実現すること

③インカレの推薦枠数が1次リーグで決まらないこと（現状5or6）

2) 競技部のゴール

①実現可能性の高いスケジューリングを組むこと

①県総合（8月下旬）

②皇后杯1次ラウンド（9月：近畿総合の復活が検討されている）

③国体（10月）

④台風等の予備日

⑤日学への推薦日（11月2週目）前に全日程を終える

↓

10チーム2巡（18試合）では開催に必要な日数が足りない

↓

上記1)と2)から考えられる選択肢

①案：8チーム2巡（14試合）（2019方式、2020:コロナによる中止、2021:8チーム1巡のみ）

②10チーム1巡後に2次リーグ

②-1案：上4-下6（2022方式：上12試合、下14試合）

②-2案：上5-下5（2023方式：上下13試合）

※2018以前の8チーム1巡後に上4+下6（2部2位まで）方式は入れ替え戦実施のため除外

II. 過去のリーグ戦のデータ分析

- 1) 戰1次リーグにおける上位と下位の平均得失点差は増加（結果としての得失点差の視点）

→2021年上位4チームが下位4チームと対戦した際の平均得失点差は17.1点

→2022年上位5チームが下位5チームと対戦した際の平均得失点差は26.4点

→2023年上位5チームが下位5チームと対戦した際の平均得失点差は29.0点

- 2) 2巡目における順位の入れ替わりは2年ともあり（結果としての勝敗の視点）

→2022年：上位リーグ 2/4チームが変動 下位リーグ 5/6チームが変動

→2023年：上位リーグ 4/5チームが変動 下位リーグ 3/5チームが変動

→2巡した結果1勝1敗の対戦が増加

2023年度					
上位	人科	3チームと1勝1敗	下位	外大	3チームと1勝1敗
	体大	3チームと1勝1敗		園田	2チームと1勝1敗
	人科	3チームと1勝1敗		産大	2チームと1勝1敗
	関学	3チームと1勝1敗		奈良	1チームと1勝1敗
	立命	2チームと1勝1敗		関大	1チームと1勝1敗

2022年度					
上位	人科	1チームと1勝1敗	下位	外大	1チームと1勝1敗
	立命	2チームと1勝1敗		関学	-
	体大	1チームと1勝1敗		園田	-
	武庫	3チームと1勝1敗		関大	1チームと1勝1敗
				奈良	-
				天理	1チームと1勝1敗

- 3) 2部から昇格したチームが一方的に負けている状況ではない（2部から上がったチームの視点）

- 4) 5チームずつの編成はインカレでの戦いを再現出来る可能性（試合方式の視点）

→前日に試合がない“待受け”方式を意図的に上位に対して設定できる

5) スターティングメンバーのプレイタイムからの検討

(結果としての得失点だけでは評価できないゲームの強度/質の視点)

2019 リーグ戦データ (8チーム2巡を実施した年)

行ラベル	平均 / Time		列ラベル		総計
	対戦上4	1巡目	対戦下4	2巡目	
結果上4	136:37	126:07	125:58	124:38	128:08
結果下4	137:16	128:36	134:25	141:41	135:33
総計	136:59	127:13	130:38	132:13	131:50

上位4チームは
下位4チームとの1次リーグ対戦と2
次リーグ対戦でスターティングメンバ
ーのプレイタイムの変動が少ない

行ラベル	平均 / Time		列ラベル		総計
	対戦1-5	1巡目	対戦6-8	2巡目	
結果1-5	134:15	130:08	123:58	129:44	129:28
結果6-8	131:43	132:20	138:43	142:00	135:47
総計	133:12	130:50	130:17	133:14	131:50

上位5チームは
下位6~8チームとの1次リーグ対戦
と2次リーグ対戦でスターティング
メンバーのプレイタイムの変動が少
ない

2023 リーグ戦データ (10チーム1巡→上下5チームで1巡を実施した年)

行ラベル	平均 / Time		列ラベル		総計
	対戦上5	1巡目	対戦下5	2巡目	
結果上5	148:20	113:19	149:16		135:09
結果下5	140:33	146:47		147:18	144:33
総計	144:01	128:11	149:16	147:18	139:51

上位5チームは
下位5チームとの1次リーグ対戦で
スターティングメンバーのプレイタ
イムが少ない

行ラベル	平均 / Time		列ラベル		総計
	対戦1~5	1巡目	対戦6~10	2巡目	
結果1~5	148:20	116:00	109:19	149:16	135:09
結果6~8	136:57	141:08	142:05		149:00
結果9~10	145:58	155:38	151:15		144:46
総計	144:01	130:23	124:54	149:16	147:18
					139:51

上位5チームは
下位6~8, 9~10チーム
との1次リーグ対戦でス
ターティングメンバーの
プレイタイムが少ない

行ラベル	平均 / Time		列ラベル		総計
	対戦1~8	1巡目	対戦9~10	2巡目	
1~8	135:51	121:36	149:16	149:00	137:45
9~10	149:36	151:15		144:46	148:14
総計	138:54	124:54	149:16	147:18	139:51

上位8チームは
下位9~10チームとの1次リーグ対
戦でスターティングメンバーのプレ
イタイムが少ない

III. 結論

①上位・下位間の点差は広がっている（結果としての得点の視点）

②上位同士内/下位同士内では2巡目に順位が入れ替わっている⇒競争激化（結果としての勝敗の視点）

→1部の枠が広がることによって将来的な強化校の増加が見込まれる（普及・育成の視点）

③8チーム2巡制（2019）と比較して10チーム1巡→上下5チーム1巡制（2023）を比較すると上位チームにとって1次リーグの下位チームとの対戦はスターティングメンバーのプレイタイムが短い

→特に9~10位との対戦ではスターティングメンバーは20分程度のプレイタイムになっている

→ベンチメンバーの強化には貢献できている

→スターティングメンバーの強化とは言えない

（結果としての得失点だけでは評価できないゲームの強度/質の視点）

④1部上位チーム、1部下位チーム、2部上位チーム……どこの強化に焦点を当てるか

強化的視点と普及的視点のいずれを最重要とするか

で選択肢は変わる

IV. 結論に基づく原案

第1案：10チーム1巡後に上下5チームに分けた2次リーグ（13試合：現状維持 ②-2案）

メリット

①リーグ戦の中でインカレを想定した上位の待受方式をシミュレーションできる

②1部の中で強化と普及の両輪をバランスをとって回すことができる

強化：2巡目は接戦が見込まれる上位チーム同士/下位チーム同士での試合に絞られる

普及：1部の枠数が増えることで下部所属チームの競技意欲/強化意欲が高まる

③下位チームもインカレ出場をかけて戦うモチベーションが保つことができる

デメリット

①下位チームは上位チームと2巡目を体験できない

②「負けたら落ちる」という厳しさが低減する

第2案：8チームによる2巡方式（14試合：①案）

メリット

①下位チームも上位チームとの2巡を経験できる

②強化を最優先して1部の門戸を8チームに絞ることにより勝負の厳しさが生まれる

デメリット

①1部の門戸が狭まる

V. 追記事項

現行方式を維持しながらもインカレの結果を確認しながらの議論を継続する

上位チームに対するリーグ戦とは別視点の強化策を整える（他地区強豪校とのゲーム）

VII. 1部監督会議から得られた意見のまとめ

- ・Zoom会議への出席は7/10校
- ・8チーム案2巡案への賛成は4校……→原案通りで進める

新たに得られた視点

- ・関西女子学連の登録数が減っていいること関連づけて検討する必要性がある
- ・実施方法がコロコロ変わることは望ましくない……慎重な審議が必要
- ・コロナ禍で入れ替え戦が実施できずに10チーム制を取らざるを得なかつた
(感染隠しての出場の可能性を排除できなかつた)
- ・学連としてはトップダウン的決定ではなく議論を重ねた合意形成が重要である
- ・これまで議論してきた強化部/競技部の視点に含まれていなかつた「学生視点」の重要性
 - ・1部リーグに所属する全学生に個人賞表彰の機会があること……同一相手との対戦
 - ・最終日に全チーム試合があり同一会場に集う機会があること……偶数制

VIII. 最終原案

- ・2025シーズンは現行の10チーム制、上下5チームによる2次リーグ制で実施する
- ・2年間/2年間という有限の時間軸の中で学生バスケットボールに打ち込む主体者である『学生一人一人が輝やくこと』を最重要視する案を学連全体で検討する
- ・単に1部10チームだと5部を作らなくて済む的な方法論上の合理性を優先しない
- ・「偶数制」「複数巡実施」を全部で実現できる方法がないか検討する